

Ciconia 1:35-37(1992)

1991年福井県で観察された アカガシラサギ

大迫義人¹

アカガシラサギ *Ardeola bacchus* は、極東の沿海地方南部、中国の東部から南西部、台湾、インド東部、インドシナ半島およびボルネオに分布し（ヴォロビョフ 1977, De Schauensee 1989）、日本では九州、沖縄地方でまれに見られる鳥である（日本鳥類保護連盟 1988）。ところが、1972年以後、本州各地で周年観察されるようになり、1981年には熊本県で（吉島・岩下 1981）、1986年には秋田県で（高橋・堤 1986）繁殖が確認されている。このように、日本における本種の渡来数増加と分布の拡大が確認されているなかで、1991年8月に福井県でも観察されたので報告する。

アカガシラサギが観察されたのは、福井県坂井郡三国町加戸にある大堤（おおづつみ）の池（36° 14' N, 136° 11' E）であった。大堤は、人工的に築堤されたもので、周囲約1.3 km、水深約1.0 mの小型の池であった。北部を果樹園、南部を道路をはさんで水田に囲まれていた。この池では、ハス *Nelumbo nucifera*, コウホネ *Nuphar japonicum*, ジュンサイ *Brasenia schreberi*, ヨシ *Phragmites communis*, ガマ *Typha latifolia*, カンガレイ *Scirpus triangulatus*, サンカクイ *S. triqueter*, ヒツジグサ *Nymphaea tetragona*, ガガブタ *Nymphoides indica*, キクモ *Limnophila sessiliflora*, ミズガヤツリ *Cyperus serotinus*, ミズオトギリ *Triadenum japonicum*, ヌマトラオノ *Lysimachia fortunei* などの水生植物群落がみられた（里見ら 1979）。また、マガモ *Anas platyrhynchos*, コガモ *A. crecca*, オナガガモ *A. acuta*, カルガモ *A. poecilorhyncha*, ヒドリガモ *A. penelope*, ハシビロガモ *A. clypeata*, ミコアイサ *Mergus albellus*, カイツブリ *Podiceps ruficollis*, コサギ *Egretta garzetta*, アオサギ *Ardea cinerea* などの水鳥が多く観察されている（福井県自然環境保全調査研究会 1980, 福井県 1991）。

最初にアカガシラサギが確認されたのは、1991年、8月2日であった。胸から頭部にかけては栗色で、背部は黒かったが、腹部に茶色の筋が入っていた。おそらく夏羽から冬羽への移行の状態であったと考えられる。ハスの陰や葉の上で歩きながら小動物を捕食していた。次に確認されたのは8月12日であった（榎本二郎 私信）。さらに、8月24日にも同所で確認された。同日、この個体は頭部の栗色が薄れ腹部の縞模様がはっきりしていた（写真1）。同所でダイサギ *Egretta alba*, アオサギ, コサギ, ケリ *Microsarcops cinereus*, カルガモ, マガモも観察されたが、アカガシラサギは単独で行動していた。その後は、調査を行なわなかったため、いつまで滞在していたかは不明である。3回にわたり観察された個体は、1羽で出現したことから、羽色などの特徴に大きな変化が見られなかったことより同一個体と考えられる。



写真1. 1991年8月24日、大堤で観察されたアカガシラサギ。

Photo 1. The Chinese Pond Heron on Ozutsumi pond on 24 August, 1991.

福井県では、アカガシラサギは1985年10月に三方五湖の久々子湖（くぐしこ）で初記録されているため（上木・八田 1986）、今回の観察が2例めの記録となる。全国的にみると1970年以前の観察は、ほとんどが秋期から冬期に集中していたため移動または渡りの途中に飛来したものであるが、それ以後は春期から夏期に多く観察されるようになり、しかも、繁殖するようになった（新倉・中村 1987）。そういう状況から、今回の個体は繁殖期の終わりに長期滞在していたことより、国外から

の飛来というよりも、国内で繁殖した個体が分散してきたものと考えられる。

アカガシラサギは、ハス、スイレンなどのある池沼を好み、カエル、水生昆虫類を捕食し、ヤナギなどの疎林で営巣する（新倉・中村 1987）。もしペアの相手が存在していた場合、採食場所や営巣場所を備えている大堤での繁殖も将来有り得るだろう。

引用文献

- ヴォロビョフ、カ・ア. 1977. ウスリーの鳥 上巻. 高橋清訳, pp.51-52. たたら書房, 米子.
- De Schauensee, Rodolphe Meyer. 1989. Birds of China, 602pp. Oxford University Press, Oxford.
- 福井県. 1991. 平成2年度ガンカモ科鳥類調査報告書. 福井県. 18pp.
- 福井県自然環境保全調査研究会 編. 1980. みどりのデータ・バンク総括報告書 281pp. 福井県
- 日本鳥類保護連盟. 1988. 鳥630図鑑. 日本鳥類保護連盟, 東京. pp.394.
- 新倉三佐雄・武裕一郎. 1986. 茅ヶ崎市で越冬したアカガシラサギ *Ardeola bacchus* について 1986. Strix 5:69-70.
- 新倉三佐雄・中村一恵. 日本におけるアカガシラサギの分布と生息状況. Strix 6:50-65.
- 里見信生・松尾秀邦・矢島孝昭 編. 1979. 日本海カラーブックス05 北陸の自然誌 野編. 巧玄出版 富山市. 157pp.
- 高橋一郎・堤朗. 1986. 八郎潟干拓地内におけるアカガシラサギの繁殖記録. 生物秋田 (20):32-34.
- 上木泰男・八田七郎右エ門. 1986. 野鳥情報〔アカガシラサギ〕. 野鳥 51(4):34.
- 吉島敦子・岩下勝樹. 1981. 野鳥情報〔アカガシラサギ〕. 野鳥 46(11):27-28.

The second record of Chinese Pond Heron in Fukui

Yoshito Ohsako¹

One Chinese Pond Heron *Ardeola bacchus* was observed at Ozutsumi Pond, northern Fukui on 2, 12, 24 August 1991. The observation was the second record in Fukui. The individual fed small frogs, insects on leaves of lotuses along the pond edge. The Chinese Pond Heron has been a straggler but recently breed in Japan. It will stay in a future on Ozutsumi Pond which is good for breeding.

1. Fukui Nature Conservation Center. Minamirokuroshi 169-11-2, Ono-shi, Fukui 912-01

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

CHICAGO, ILL.

TO THE PRESIDENT AND FELLOWS OF THE UNIVERSITY OF CHICAGO
 I have the honor to acknowledge the receipt of your letter of the 14th inst. and in reply to inform you that the same has been forwarded to the appropriate authorities for their consideration. I am, Sir, very respectfully,
 Yours truly,
 [Signature]